平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA(Seminar of Study A)			授業コード	P170115
担当教員名	松永　多苗子			科目ナンバリングコード	P31701
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	卒業研究として希望する専門分野の担当教員クラスを履修すること. 演習を伴う授業なので，遅刻・欠席をすると授業についていけなくなります.				
受講心得	各自で設定した研究目標に向かって取り組みます. 自発的に行動し，その結果を振り返り，フィードバックをかけることを常に心がけてください.				
教科書	適宜指示します.				
参考文献及び指定図書	適宜指示します.				
関連科目					

授業の目的	研究ゼミナールは4年次の卒業研究に着手するための準備を行うことを目的とした科目です．専門教育科目の履修だけでは不足しがちな，専門教育を学ぶ上での学習方法・学習態度を身につけてもらうと同時に，卒業研究に着手する上で必要となる専門領域に関する基本的な知識・技術の習得を目指します.
授業の概要	本授業では，一人一人が課題を設定し，計画を立てて研究に取り組みます. 定期的に，調査・実施内容や進捗状況・課題等を簡潔にまとめて発表することで，人に伝える技術を鍛えるとともに，他者とコミュニケーションをとりながら，自分の考えを振り返りより深く思考していく態度を身につけていきます.

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 全体説明 本科目の目標，卒業研究に向けた計画的な取り組みについて説明します．その後，研究領域や研究テーマの候補についての説明を行い，それらの項目に関するディスカッションを行いながら，各自の課題の方向性を決め，今学期の取り組み目標を立てます.	(復習) 第1次目標設定書の作成
第 2 週 ： 調査・研究下準備① 目標とする研究テーマに関する基礎知識やツールに関する知識を学びます.	(復習)学習内容の確認問題
第 3 週 ： 調査・研究下準備② 目標とする研究テーマに関する基礎知識やツールに関する知識を学びます.	(復習)学習内容の確認問題
第 4 週 ： 調査・研究下準備③ 目標とする研究テーマに関する基礎知識やツールに関する知識を学びます.	(復習)学習内容の確認問題
第 5 週 ： 調査・研究下準備④ 目標とする研究テーマに関する基礎知識やツールに関する知識を学びます.	(復習)学習事項のまとめ・進捗報告書の作成
第 6 週 ： 準備状況の報告・研究計画 これまで学習した内容，および，今後の計画について発表し，ディスカッションを行います. それらの内容を踏まえて今学期の目標を決定し，研究計画をたてます.	(予習) 調査・研究下準備の状況を踏まえて，今学期の目標の見直しを行う (復習)研究計画書の作成
第 7 週 ： 実施①	

計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)実施内容の確認
第 8 週 : 実施② 計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)実施内容の確認
第 9 週 : 実施③ 計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)実施内容の確認
第10週 : 実施④ 計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)中間報告書の作成
第11週 : 中間発表 計画の進捗と, 取り組んでいる内容についての報告を行います. 現状を把握し, 今後の計画遂行に対してフィードバックをかけます.	(予習)中間発表準備
第12週 : 実施⑤ 計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)実施内容の確認
第13週 : 実施⑥ 計画に従って実施します.	(予習)計画遂行に必要な知識の学習 (復習)実施内容の確認
第14週 : 実施⑦ 計画に従って実施します.	(復習) 取り組んできた内容に対する発表資料の作成
第15週 : 期末発表 取り組んできた内容, および, 今度の展望について発表し, ディスカッションを行います.	(復習)発表に対するコメントも踏まえ, 実施内容を技術報告書としてまとめ, 提出
第16週 :	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自らのテーマに対して深い関心をもち, 自発的に必要な情報を収集・学習し, 計画を進めていくことができる.
【知識・理解】	研究を進める上で必要な専門的な知識を理解できる.
【技能・表現・コミュニケーション】	①研究推進していく上で必要なツールを理解し, 使用することができる. ②技術的な内容の報告書を作成することができる. ③技術的な内容のプレゼンテーションを行い, 質疑を通してコミュニケーションをとることができる.
【思考・判断・創造】	自らの研究内容の客観的な位置づけを把握することができる.

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			**20点**
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**15点**	**15点**
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**15点**	**15点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	**10点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	期末に提出する技術報告書に対して，以下の基準に対する到達度で評価します．提出が遅れた場合は減点されます． 【知識・理解】 ・技術的な内容に間違いがなく，論旨を進めていくうえで十分な内容が記述されている（15点） 【技能・表現・コミュニケーション】 ・文章の構成が適切である（5点） ・誤字脱字がない（5点） ・論理の流れが適切である（5点） 【思考・判断・創造】 ・研究背景と位置づけが適切に記述されている（10点）
発表・その他（無形成果）	【関心・意欲・態度】については，以下の基準で評価します． ・研究計画書の完成度（5点） ・発表会の質疑・ディスカッションにおける発言度合い（5点） ・各種提出物の提出率（10点） その他の観点については，期末発表に対して，以下の基準に対する到達度で評価します． 【知識・理解】 ・技術的な内容に間違いがなく，質疑にも正しく答えられる（15点） 【技能・表現・コミュニケーション】 ・発表構成が適切で，ストーリーがわかりやすい（5点） ・スライドが見やすく，誤字脱字がない（5点） ・自分の言葉で，相手をみて発表できている（5点） 【思考・判断・創造】 ・研究背景と位置づけが適切に記述されている（10点）